

浅海干潟研究部の研究概要

1. 赤潮の調査や被害軽減対策

閉鎖性海域である有明海及び八代海の環境特性を把握するとともに、有害赤潮の競合種である珪藻類について、クルマエビ養殖場からの海洋放出や海底耕うんによる発生の誘発等により、赤潮の発生抑制による被害、軽減対策に必要な知見を得ることを目的としています。

また、八代海の楠浦湾養殖漁場を中心に水温、塩分、クロロフィル量などを連続観測できる「自動水質監視テレメーターシステム」により、有害赤潮の早期発見や広域の水質データ及び赤潮情報を効率的に収集、公表するシステムの構築を行っています。

- 赤潮調査
- 水質、貧酸素調査
- テレメーターを活用した水質情報の提供
- 有害プランクトンセンサーを活用した有害赤潮（カレニア ミキモトイ）の早期発見
- 国立研究開発法人 水産研究・教育機構水産技術研究所等との共同による広域的赤潮監視システムの開発



有害プランクトン
(カレニア ミキモトイ)



クルマエビ養殖場からの珪藻の海洋放出



自動水質監視テレメーター

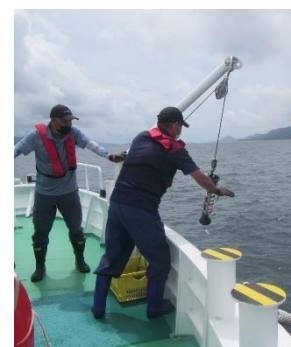
2. 漁場環境の長期モニタリング

有明海、八代海等漁場における海況を周年にわたり把握することにより、漁海況の変動を予測し、特異現象の早期発見や各種施策のための基礎資料を得るとともに浦湾域養殖漁場の環境を把握し持続的な漁場利用の知見を得ることを目的としています。

- 有明海、八代海定点調査（大潮時）
- 漁協等に対する調査結果の提供



水質自動分析装置



船上での採水作業

3. 環境変化に適応したノリ養殖技術の開発（ノリ品種）

養殖ノリの減産要因となる高水温や低塩分及び低栄養塩等に耐性があり、かつ生長性の優れた品種を選抜育種し、ノリ養殖生産の安定化や効率化を図ります。

また、当センターが既に保有している養殖株の環境変化に対する適応性を評価します。

さらに、水温、比重、栄養塩量などの漁場環境に関する情報やノリ養殖情報等をノリ養殖業者の方に提供するとともに、適切な助言を行っています。

- ・室内における環境負荷選抜試験及び野外陸上水槽養殖試験
- ・ノリ漁場の栄養塩調査と漁業者への情報の提供



ノリの養殖試験



ノリの室内採苗試験

4. アサリ・ハマグリ等の増殖技術の開発

本県の重要な水産資源であり、環境浄化機能も有しながら、近年減少が著しいアサリ、ハマグリ等の二枚貝資源の回復を図るため、調査及び増殖技術開発を行っています。

- ・河口域におけるアサリ等の生息状況、底質環境調査
- ・河口域の浮遊幼生調査
- ・資源管理方策の報告、指導



アサリ生息状況調査

5. 有明海・八代海再生に向けた4県協調の取組み

有明海特産魚介類の資源回復を図るための技術開発を行っています。二枚貝のアサリ、ハマグリ、タイラギについては、持続的かつ安定的な資源の利用が図られるよう、母貝場の管理手法の確立を目指しています。

- ・（アサリ）母貝場の機能効果調査と管理手法の確立
冬季減耗要因の解明及び対策手法の検討
- ・（ハマグリ）母貝場の機能効果調査と管理手法の確立
- ・（タイラギ）母貝場の機能効果調査と管理手法の確立
中間育成等の増産技術開発



タイラギの中間育成状況